

水尾のアサギマダラ

3日間の観察記録



10月5日 6時～10時

曇り 18度→23度 微風→北寄りの弱風

薄い雲が全天に広がる風の無い朝でした。到着した6:00には薄暗い中を既に2頭が飛んでおりました。15分後に数えてみたら20頭ほどでしたが、周りを見渡すと上からも下の谷からも前後左右からひっきりなしにアサギマダラがやってくるのです。フジバカマに目を戻すともう既に100頭を越えておりました。

6時30分に捕獲にかかりましたが、たちまち網が重くなり、横の小屋の庇の陰を借りて標識作業に入りました。作業は一頭当たり30秒はかかります。

8時12分に日光からの移動個体が捕獲されました。南西に394kmも飛んで来た事になります。

この日は9時55分に標識を打ち切りました。午前中は10時までと言うのが地元との約束なのです。その時点で200頭以上のアサギマダラが乱舞し、あるいは吸蜜しておりました。フジバカマの誘引力は凄いと思います。標識数は249頭で全部オスでした。メスも同じぐらいの数が南下移動している筈なのですが、メスは必ずしもフジバカマの花蜜でなくとも良く、コシアブラの花蜜などを吸いながら食草のある森の中を移動するので、なかなか私達の目にはふれません。

アサギマダラのオスはフジバカマの花蜜から性フェロ

モンの前駆物質であるアルカロイド(PAと呼ばれる)を摂取しないとメスが交尾してくれないのです。

この日、何頭のアサギマダラが水尾を通過したのでしょうか。雄雌を合わせると恐らく1000頭を超える数になるのではないかと想像しております。

10月6日 15時～17時

快晴 25℃ 北寄りの弱風

この日は夕方のアサギマダラを観察するのが目的でした。午後は15時からと言うのが地元との約束で、網を2本持って捕獲しました。徹底的に獲りつくしたら翌日どうなるかを知りたかったのです。

それぞれの網に30頭ぐらい入れて、それを3回繰り返したら17時になっておりました。標識数は152頭です。その他に前日に標識した蝶の現地再捕獲が23頭ありましたし、長野、富山、石川からの再捕獲も3頭ありました。

現地再捕獲が13%あることについては、捕獲して吃驚させてもお腹が空いておれば現地に留まり、吸蜜を続けると考えるのが妥当で、大半のアサギマダラは一日も吸蜜を続ければ旅立つものと思われれます。毎日入れ替わるとしたら大変な数のアサギマダラが水尾を通る事になります。

17時に2頭残っていたアサギマダラは10分後には東と西に分かれて飛び去りました。

10月7日 6時～10時 快晴 13℃→18℃

無風→北寄りの微風、一時東の風→北風

前日は全部捕り尽して終わったのですが、今朝はどのようにアサギマダラが現れるかが観察ポイントです。

6時の気温は13℃でした。水尾は愛宕山の西側の谷あいに位置し、水尾川を隔てた西側の尾根にもまだ陽は当たっていません。風は無いが寒いのでカップを取り出して着用しました。水尾は34戸の小さな集落で、29戸に人が住んでいるとか、殆どが松尾姓です。柚子の生産地であり、温度差が激しいので他の作物も美味しいと聞きました。

集落は柚子畑とわずかな田畑の急斜面の中にあり、それを人工林を主とした針葉樹林が取り囲んでいます。民家の庭にも樹木が多く、集落そのものが森に溶け込んで自然と集落が渾然一体となっている豊かな里山環境でした。

寒すぎるせいか、コオロギもエンマだけが鳴いておりましたが、野鳥の気配は結構多く、コゲラ、キジバト、ヒヨドリ、イカル、ハシブトガラス、カケス、ホオジロ、アオゲラ、モズなどが確認されました。

6時半、西側の尾根に陽が射し始めましたが弱々しく、13℃ではアサギマダラは恐らく飛べる気温ではないでしょう。しかし、黒い胴体に陽が当たると短時間で体温は上昇し、活動できる体温になるのだと思います。もう一つの体温を上げる方法は筋肉を激しく使って動き回ることです。生活適温は何度なのでしょう。7時、陽はまだここまでは届かないが、北寄りの微風が吹き始めました。陽のあたる斜面では上昇気流が生じたのでしょうか。7時5分、フジバカマにも陽が当たり始め、アサギマダラが一頭飛来しましたが、花には止まりません。10分後には3頭に増えましたが激しく上下動しながら飛び回り、体温上昇をはかっているものと思わます。依然として気温は13℃のままです。

7時30分、フジバカマの畑全体に陽が当たりはじめ、花の上を激しく飛び交っていますが、まだ吸蜜出来る体温では無いらしい。

7時40分、陽射しが強くなり、アサギマダラが全方向から飛来して乱舞状態となりました。タオルを回すと良く反応し、2頭同時に目の前にやって来て目が合った。そんな瞬間を写真に撮りたいと思いました。

7時50分、50頭以上が吸蜜状態となり、畑の周りにも多数が飛び回り始めました。

8時15分、短時間東の風が変わり、次々と飛来が続いて100頭以上がフジバカマに止まって吸蜜状態となる。

無風の時は全方向から飛来していましたが、風が吹き始めると風下からの飛来が変わり、畑を取り巻く防獣ネットの手前で一旦ホバリングして戸惑った後、5~6頭溜まると次々に網を越えて畑に入るのが面白かった。なぜ網目(15cm角)を潜らないのだろう。

そんなアサギマダラの行動を飽きずに観察しているうちに9時半になってしまい、あわてて2度網を振ったら10時の門限になってしまった。

標識数は48頭、現地再捕獲は15頭(23.8%)と高めではあったが、激しく入れ替わっていることが想定された。この秋、水尾での標識数は973頭となった。

地元の人たちと11時30分までフジバカマとアサギマダラを“鑑賞”した後退散しましたが、その時点での

アサギマダラは200頭を越えていたと思います。

(2011.10.7 金田 忍 記)

